



お子さんの内面の理解からのアプローチ
お子さんにあった教育環境とは

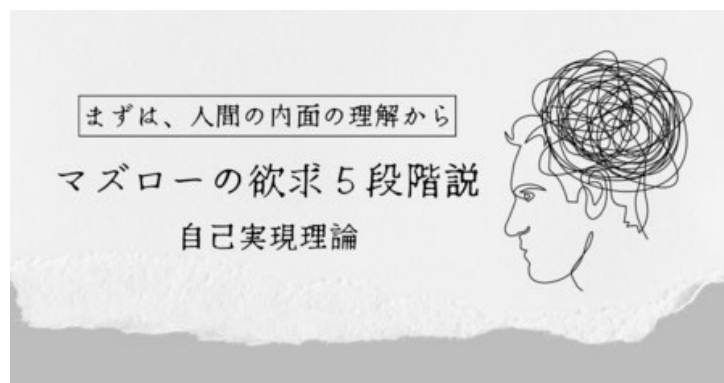
富田幼稚園
宮澤公大

「こどもには生き生きと自分らしい人生を歩んでほしい」と願うご家庭は多いのではないのでしょうか。

今回は、幼児教育につながる、子育て観について一緒に考えてみましょう。

5歳までの教育環境がこどもの将来を決めるっていうけど・・・、スマホでネットを検索すると・・・、子育て情報は膨大っ！えー！！どれを参考すればいいの？皆さんもこんな経験あるのではないのでしょうか。

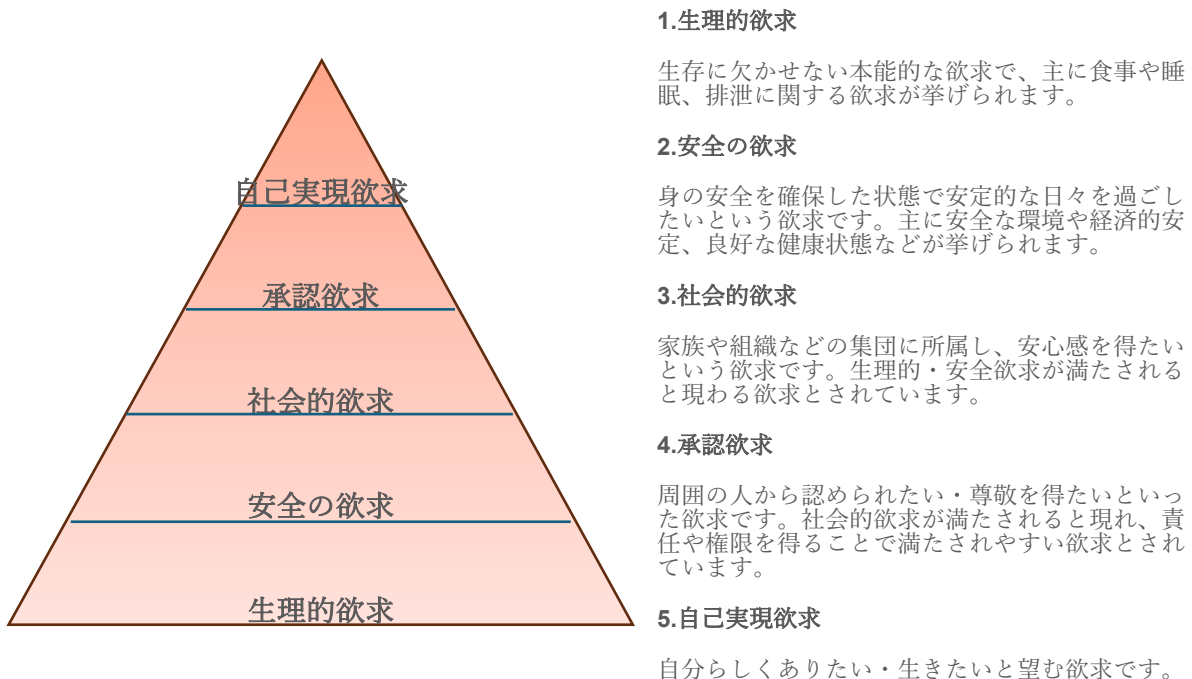
子育てや幼児教育環境の選択で参考になる、コチラを紹介します。



お子さんが、自らの力で、生きたいように生きるためには、“**自己実現**”できる人になることが必要です。お子さんをまっすぐ導くためのヒントとなる「マズローの欲求5段階説（自己実現理論）」をご存じですか？

※アブラハム・ハロルド・マズローは、アメリカ合衆国の心理学者です。1943年に「人間の同期に関する理論」の中で、欲求5段階説を発表しました。

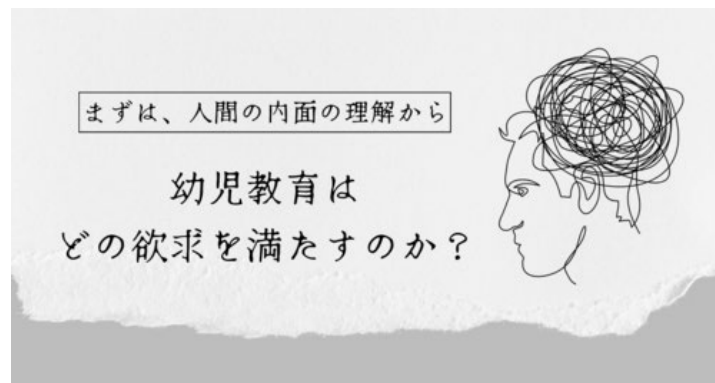
マズローの欲求5段階説は「人間の心理を日常的な感覚で理論化しよう」というヒューマニスティック心理学から生まれました。



欲求5段階説は、人間の欲求を「**生理的欲求**」「**安全の欲求**」「**社会的欲求**」「**承認欲求**」「**自己実現欲求**」の5つの階層に分かれているという理論です。

これらの階層はピラミッド状になっており、低い階層の欲求が満たされることによって次の段階の欲求を求めるようになります。

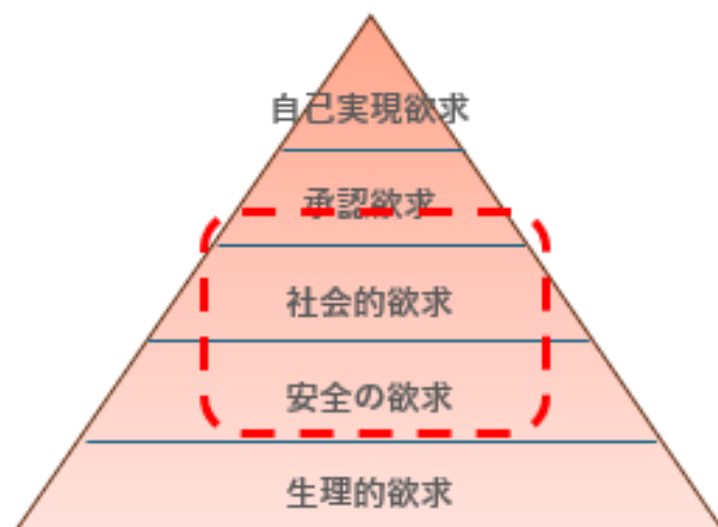
低い階層の欲求が満たされることによって次の段階の欲求を求めるようになります。各段階が満たされることで自己実現の欲求に到達します。階層の階段飛ばしはできません。皆さんのお子さんはどの段階にあるでしょうか？少しイメージしてみましょう。



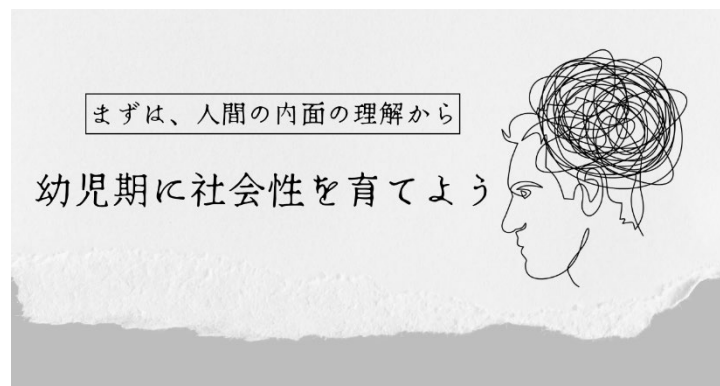
では、3歳からの幼児教育は、お子さんのどの欲求を満たすものなのかについて少し考えてみましょう。

幼稚園は、幼児に適した環境で、同じ年齢のこどもで集団を形成し、集団生活や教育活動の実践を通じて、お子さんの「～したい」を満たす経験を提供してきました。

幼児教育は、安全の欲求、社会的欲求、承認欲求の一部、を満たす経験を提供しているでしょう。



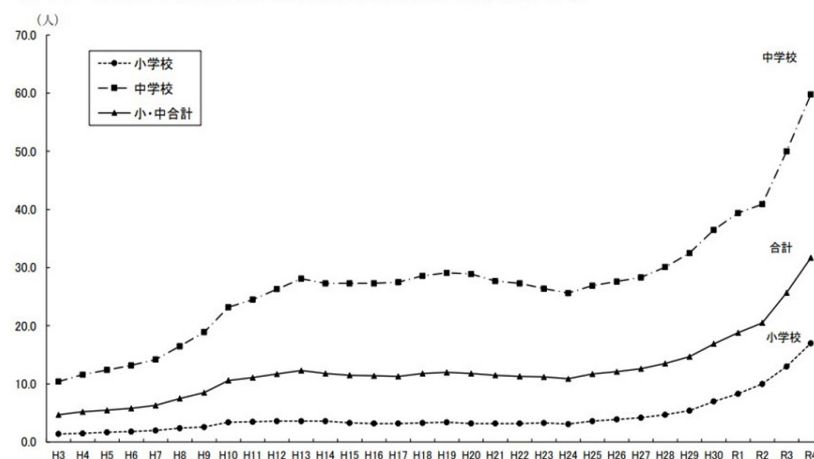
幼児教育以降の義務教育、高等教育はどのような欲求に適した環境でしょうか？



文部科学省は幼児期の終わりまでに育ててほしい姿『10の姿』で**1 健康な心と体**、**2 自立心**、**3 共同性**、**4 道徳性・規範意識の芽生え**、**5 社会生活との関わり**、**6 思考力の芽生え**、**7 自然との関わり**、**8 数量・図形、文字等への関心・感覚**、**9 言葉による伝え合い**、**10 豊かな感性と表現** を明示しています。10の姿では、社会性の分野を多く取り上げています。

10の姿を明示した背景には、①社会に参加したくない大人、社会参加を望まない子ども達、②子育てが、安全の欲求で足踏みし、社会的欲求を満たす環境を欲しない、③義務教育初期において、学びの基礎が育っていないことによる、子どもと家庭、教育現場の混迷があるのではないのでしょうか。ここ10年間の義務教育における不登校児童数の増加からも教育現場の混乱が読み解けます。

<参考3> 不登校児童生徒の割合(1,000人当たりの不登校児童生徒数)の推移のグラフ



(注) 調査対象: 国公私立小・中学校(小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含む。)

一般的に幼児期後期 3~6 歳は、社会性を伸ばす時期だとされています。幼児期の社会性の育ちは幼児教育における最重要課題であると言えます。

一人ひとりの心身の発達に合わせ、いつ、どこで、どんな経験をするかが大切です。

①社会的欲求を求めているにもかかわらず、それに適した教育環境ではない、②そもそも、お子さんが社会的欲求を求めているというミスマッチが起きないように、お子さんの内面の発達にマッチした教育環境が重要です。